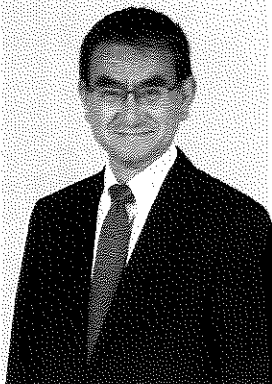


年頭の二揆撽

防衛大臣

河野 太郎



新年あけましておめでとうございませす。偕行社會員の皆様、ご家族の皆様にも、謹んで新春のお慶びを申し上げます。旧年中に防衛省・自衛隊に賜りました一方ならぬご支援・ご協力に對し、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。

私が防衛大臣に着任して約4カ月が過ぎようとしておりますが、我が国を取り巻く安全保障環境が、極めて速いスピードで変化し、一層厳しさと不確定性を増していることを実感しています。

北朝鮮は、依然として我が国全域を射程に収める弾道ミサイルを数百発保有、実戦配備しており、昨年5月以降、弾道ミサイル等を相次いで発射し、関連技術の高度化を図っていると認識しています。このような状況は、国際社会全体にとっても深刻な課題です。中国は、透明性を欠いたまま継続的

に高い水準で国防費を増加させ、軍事力を広範かつ急速に強化し、周辺海空域等における活動を拡大・活発化させています。

AIを搭載した自律型兵器のような革命的な最先端技術の開発に各国が注力し、自律型致死兵器システム(LAWS)に係る国際的な議論が活発になるなど、技術の変化が安全保障の在り方を根本的に変えようとしています。

また、近年、大規模な自然災害が毎年のように発生しております。このような安全保障環境の下、本年も、国民の命と平和な暮らしを守り抜くため、以下の施策を推進していく考えです。

第一に、防衛計画の大綱に基づき、これまでに直面したことのない安全保障環境の中にあっても、国民を守り抜くことができる真に実効的な防衛力の構築を、迅速に進めてまいります。急速に変化する安全保障環境に適應するために、真に重要な分野を見極め、従来の陸・海・空という区分や既存の予算・人員を前提とする旧来の発想から脱却し、私自身が先頭に立って、大胆な発想で我が国自身の防衛体制の強化に取り組んでまいります。また、少子高齢化が進む厳しい環境の中、次代の防衛省・自衛隊を担う人材を確保・育成することは我が国の防

衛の喫緊の課題です。宇宙・サイバー・電磁波や人工知能等の新たなテクノロジを担う専門性の高い人材の確保や、国際的な安全保障協力の場においてもリーダーとなる人材の確保はこれまで以上に重要であり、人的基盤の強化に資する取り組みを講じてまいります。

軍事技術の進展も踏まえた技術基盤の強化、装備品の生産・運用・維持整備に必要不可欠な産業基盤の強靱化といった防衛力の中心となる構成要素の強化もしっかりと進めてまいります。

第二に、我が国の安全保障の基軸である日米同盟の強化を、より一層進めてまいります。

昨年11月、ADMMプラス(拡大ASEAN国防相会議)の機会を捉えてエスパル米国防長官と日米防衛大臣会談を実施し、日米同盟の強化に向けて議論しました。整合する両国の戦略を具体化するため、引き続き、様々な分野において、日米同盟の抑止力・対処力の一層の強化に取り組んでまいります。

同時に、地元の基地負担を着実に軽減していく必要があります。特に沖縄については、負担軽減を目に見える形で実現していかなばなりません。引き続き、普天間飛行場の一日も早い移設・返還などに全力で取り組んでまいります。また、一層厳しさを増す安全保障環境の中、在日米軍の安定的な駐留とその即応性の維持は引き続き重要であり、そのためにも地元の理解と協力が不可欠であるとの共通認識の下、米軍の安全な運用の確保などに、米側と協力してしっかりと取り組んでまいります。

また、米国のほか、基本的価値や安全保障上の利益を共有する多くの国々との二国間、多国間での協力の強化も重要です。

「自由で開かれたインド太平洋」というビジョンを踏まえ、オーストラリア、インド、ASEAN諸国、太平洋島嶼国やニュージーランド、またスリランカ等の南アジア、さらにはインド太平洋等の関与を強めていくイギリスやフランスなどとの、防衛協力・交流を着実に拡大させていく考えです。

同時に、国際社会の平和と安定のため、グローバルな安全保障上の課題についても、積極的な取組を続けてまいります。

以上申し述べましたように、防衛省・自衛隊が直面する課題は数多く存在しております。

私は、防衛大臣として、国民の皆様への期待にしっかりと応え、国民の命と平和な暮らしを守り抜き、国際社会の平和と安定に一層貢献するため、25万人の隊員と一丸となって、これらの課題に全力で取り組んでまいります。

これらの取組を進めていくためには、国民の皆様幅広いご理解とご協力が不可欠です。長年、我が国の防衛について、国民の理解促進に取り組んでこられた偕行社の皆様におかれては、本年もご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願ひいたします。

最後に、偕行社の今後益々のご隆盛と、會員並びにご家族の皆様益々のご健勝と本年一年のご多幸を祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。